

- 街と食とアート～食と現代美術 vol.8開催!
- 続・朝鮮通信使 韓国 AIR 報告展
- 2021年10月～12月の主なイベント
- 徐勇展「THIS FACE」
- AIR 2021 SUMMER オープンスタジオレポート

BankART NEWS Vol. 22

発行: BankART1929
2021年9月7日発行

街と食とアート ～食と現代美術 vol.8 開催!

会期 2021年10月1日 [金]～19日 [火] 11:00～19:00
会場 BankART KAIKO (馬車道)、BankART Station (新高島)
 新高島駅構内B1階の歩道部分の壁面
料金 ¥900 (中学生以下及び、障がい者手帳お持ちの方と付き添い1名は無料)

参加作家 開発好明、磯崎道佳、深沢アート研究所(山添 joseph 勇、カブ)、熊澤桂子、丸山純子、自転車部(部長:KOSUGE1-16 土谷)、三浦かおり、細淵太麻紀、ヤング荘、山本アンディ彩果、山本愛子、武藤勇+(君塚史高+加藤良将)、札本彩子、松田直樹、辻 梨絵子、牛島智子、遠藤章子、Mrs. Yuki(平嶺林太郎+大久保具視)、祐源紘史、井原宏路、田中偉一郎、片岡純也+岩田理恵、江波富士子、傍島義雄、松本秋則、松本倫子、村田 真、岩井成昭、葉栗 翠、NOGAN、田中信太郎(室内装飾/撮影:中川達彦)、井上尚子、木村崇人、村田峰紀、チームせんだんご(黒田大スケ、西松秀祐、野村由香)、小林真依、橋本康二(映像作品/横浜市民放送局)、蔵 真墨ほか

食は、他の全ての文化領域を飲み込んでしまう包容力と普遍性をもっている。カフェ文化や、料理を題材にしたTVプログラムや雑誌で頻繁にとりあげられるなど、現代の豊かさの指標のひとつとして、生活の中で大きな領域をしめ始めている。また美術の文脈でもダ・ヴィンチやフェルメールの絵に代表されるように、食のもっている空間が、その時代を代表するアイコンとして表出されている例もある。この展示会の目的は、食文化と美術作品の往来を通じて、食の中に潜む、プライベート性、地域性、共有性、暴力性、批評性、時代性、空間性や包容性を垣間みようとする試みである。BankART Station と BankART KAIKO の約1,500㎡の空間に、食をテーマにした現代美術の作品群の展示と、絵画にあらわれる食のアイコン(古典～現代)が表出した写真群を展示する。本来は、ダイナミックに都市的な変化をみせる「新高島地区」「馬車道北仲地区」の地域の飲食街の各店舗とも連動(作品の展示)し、街と食とアートをつなぐプログラムを予定していたが、コロナ禍の中、今回はこの部分は残念ながら断念、次回へとつなげていきたい。



続・朝鮮通信使 韓国 AIR 報告展

会期 2021年9月10日 [金]～26日 [日]
11:00～19:00
会場 BankART KAIKO 入場無料
アーティストトーク: 9月23日 [木・祝] 17:30～19:00
料金: ¥500 (小冊子付)
参加作家 蔵 真墨、太田信吾、黒田大スケ、下西 進、中川達彦



2010年頃から、BankART1929では、主に江戸時代に行われていた日韓交流プロジェクトである「朝鮮通信使」を参照しながら、地域を訪ねる、シンポジウムや展覧会を行うなどの活動を通じて、日韓の新しいネットワーク構築を試みる「続・朝鮮通信使」のプロジェクトを行ってきました。江戸時代の経路にそって、10～40人のクリエイターたちと共に船に乗り込み、ゆかりの港町を巡る。対馬から下関、上関と瀬戸内を往き、大阪から東海道、関東へと旅を続けました。(同様に韓国国内も)

こうした活動の中、韓国人を招き、滞在制作してもらおうAIR(アーティストインレジデンス)事業へと展開。数名の韓国作家を3ヶ月間ほど招き、滞在制作と発表をしてもらいました。同様に、日本人作家を韓国に送るプログラムもスタート。ところが、残念ながら、こうした活動はBankART Studio NYKの解体撤去問題、慰安婦を含む日韓の政治的な問題、コロナ禍の問題などで、活動は余儀なくストップされてしまいました。

さて、こうした困難な問題も、時間が経過し、少しずつですが、解決の糸口も見えかけてきました。ゆっくりですが、やり残した尻切れトンボになった仕事を納め、次にいきっかけにしたいと思います。

2017年に韓国の施設で滞在制作した5人の作家の展示も含む報告会を開催したいと思えます。皆様、ぜひご来場ください。

2021年10月～12月の主なイベント

2021年10月22日～11月14日(予定)
mt art project

at BankART KAIKO
 作家:浅井裕介、片岡純也+岩田理恵、金子未弥、オンデザインパートナーズ、佐藤修悦、Carlo Galli、Tape That他(予定)
 国内外の様々なアーティストの個性豊かなTape Art(テープアート)作品を展示いたします。mtでつくるartの可能性を是非ご体感ください。

2021年10月29日～11月14日
@ BankART Station
クリエイティブクラスター「グレートリセット/スモールリポート展」

少し先の未来をお見せするクリエイティブクラスター、10年ぶりの大規模主催展。「グレートリセット」といわれる大変革の中、アート思考で未来を見通す多彩な作家たちによる作品を体感しよう。
 出展作家:アメ(クマども)、岡田裕子、キュンチョメ、チームラボ、韓亜由美ほか
 WEBサイト: creativecluster.jp

2021年11月15日～12月6日
@ BankART Station (予定)
EXPOSITION « LA VILLE AU LOIN » 「遙かなる都市」展

本展では、都市の喧騒に飛び込み、小さな街角の親密な風景から、街を見渡す広大な風景まで、私たちが生きる都市の姿を多角的に捉えることを試みます。そこには、都市回復への夢と情報に支配された世界への批判的な眼差し、過去のユートピアと、ありうるかもしれない未来の都市像が、空想上の建築によって浮かび

上がり、これからの都市の展望に思いを馳せします。
 共催: BankART1929
 特別協力: サントル=ヴァル=ド=ロワール現代アート地域振興基金 (FRAC CENTRE-VAL DE LOIRE)
 助成: アンスティチュ=フランス パリ本部

2021年12月1日～12月19日
@ BankART KAIKO 他
YPAM – 横浜国際舞台芸術ミーティング 2021

2021年12月、YPAMは、創造都市横浜との連携を強化し、地域へのコミットメントと国際的芸術交流を同時に追求する「YPAM – 横浜国際舞台芸術ミーティング」として再出発します。

2021年12月15日～12月19日
@ BankART Station
ARICA 「ミメシス」
 ARICA 結成20周年の記念となる公演。ダンサーの川口隆夫さんをゲストに迎え、ARICAとしても新たな展開の新作公演を行う。

2021年12月21日～23日
@ BankART KAIKO
パフォーマンスコレクティブ Responding Performance Initiative 「Borderlands」
 生糸というモノの長距離輸送において、国内での終着点/国外への出発点であった横浜。本展覧会は、その始発点であった長野県諏訪町での社会・文化・環境の交差を人間の身体性の次元で捉え直したパフォーマンスアートの成果展である。

徐勇展「THIS FACE」

7/16 - 8/16

@BankART KAIKO

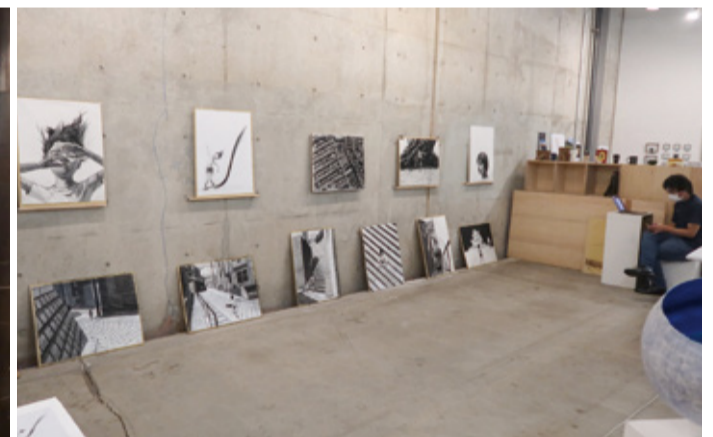
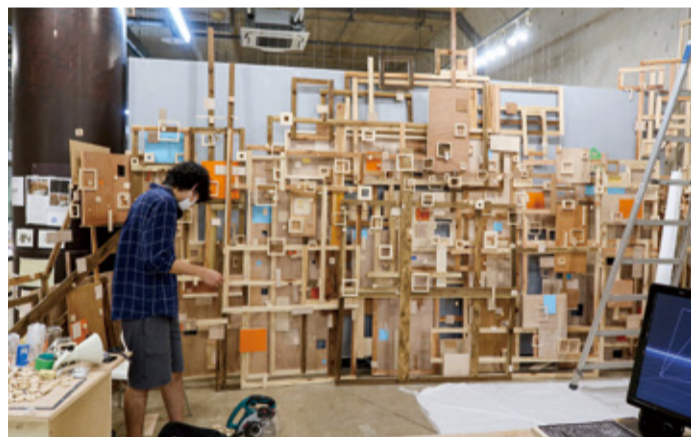
1954年中国上海生まれの写真家 徐勇氏。代表作に北京の「胡同」を撮影した『胡同101像』や天安門事件（六四天安門事件）を撮った写真集『Negatives』がある。さらに、写真家としての功績だけでなく、中国現代美術の礎となる798芸術区の創始者の一人としても有名である。

そんな中国の重鎮作家の展覧会がここ KAIKO で開催されている。本展は写真集「THIS FACE」をベースにしており、これは2011年1月19日の1日に、実在の娼婦（性工作者）・紫の顔だけを連写した約500点の写真で構成されているものだが、本展はその内の450点を展示している。化粧が施されていない素の顔から濃いメイクをした姿まで、あどけない表情から挑発的な視線まで、あらゆる姿の彼女と出会うことになる。来場者は刻一刻と変わっていく彼女を食い入るように見つめている。

AIR 2021 SUMMER
オープンスタジオ リポート

8/8-9、13-15 @BankART Station

6月14日～8月17日までBankART Stationで開催した21組の制作スタジオが終了した。コロナ禍の中、いくつかの展覧会がキャンセルする流れのなかでの制作スタジオへの変換であったが、オープンスタジオも含めて、アトリエとしての活用もうまく機能したようだ。少しは、昨年度失ったR16スタジオのフォローができたと思う。贅沢かもしれないが、発表する場所、制作する場所は近くにあった方がいい。発表する場所は都心部で制作する場所は田舎でよいという論理も間違いではないが、市場がそうであるように、水揚げと、仕込みと、販売が一緒の方が、はるかに懐が深く、売る人も、買う人も、元気のいい豊かな時空を共有できるからだ。制作場所を発表する「オープンスタジオ」という機能は、そういった意味で、造る作家同士の温度をあげ、見学にこられる人に、予想だにできなかった作家のエッセンスを伝える事になる。BankART 1929としては、この仕組みを、もっと日常的に都心部で整備していく方向での構築にトライしていきたいと考えている。(BankART1929 HPより)

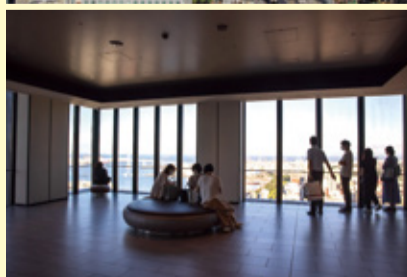


／ ご存知ですか! ／

横浜の街並みを一望 46階展望スペース

現在、徐勇展を開催しているBankART KAIKOだが、その施設の反対側にある高層ビルの最上階に行かれたことはあるだろうか。

実は、横浜の絶景を無料で一望できる超穴場スポットがそこにある。KAIKO入り口の反対側にあるエレベーターから一気に46階に行くと、ホテル「オークウッドスイーツ横浜」のロビー階に行くことができる。宿泊者でなくても開放的な雰囲気があるため気兼ねなく行けるのも良いところ。到着すると、一瞬で目を奪われる横浜の絶景が広がっている。しかも、フロア全体が360度のパノラマが楽しめるようになっており、上から見渡しながら、「あれは赤レンガ倉庫だ」とか「あそこは山下公園」等々見つけながら眺めていると横浜を観光した気分にもなれる。また、同フロアにはレストランやバーなどもあり、素晴らしい景色を眺めながらの食事はまた格別だろう。そして、実は喫煙所もある。タバコを片手に横浜の絶景を眺めながら一呼吸置いてはどうだろうか。どんな人も満足できるだろうこの場所にぜひ足を運んでみて欲しい。



編集後記

○「食と現代美術」を久しぶりに開催する。といっても計画した頃の、街や店舗と組んでという思惑や夢は、コロナ禍の延長戦の中、いとも簡単に砕かれた。まあ、今回は予備戦として、春にはもう一度トライしたいと思う。

横浜は現在バブル期で高層ビルや施設が、ものすごいスピードで増えている。20年草ぼうぼうだったのはらっばも、モダンな建物に埋め尽くされている。

また昔は、みなとみらい内部の計画だけでやっだったので、旧市街地との関係は構築できなかったが、最近自分たちが捨てた街との連結を意識的にはじめている。東横線の高島町、桜木町駅間の廃線、みなとみらい線の敷設は、旧市街地への「さよなら」の合図だったが、今回の桜木町駅～ワールドポーターズの「ロープウェイ」や（だいたい前になるが）日産本社を介してのみなとみらいと横浜駅との連結は、まさに長い期間無視してきた街に対しての「ごめんさい」のプロジェクトだ。また現在進行しているキング軸の敷設は、三菱の海岸沿いの高層マンションからソニーを抜けて、みなとみらいの大通りの地下にもぐり、新しく建設されている鹿島建設のビルを越えて、高速道路、一号線をつつきり、裏横浜を通過し、横浜駅東口（郵便局側）へと連結されていくプログラムだ。これらの一連の動き（計画）を横浜市民が気づいているかどうかは判然としませんが、少なくとも頭のよくなる横浜市の都市計画氏が、有機的に都市が連結されていく姿をにやしながら眺めているのだろうと思う。